

芥一  
日量18t堆肥化施設を導入  
塵セター  
一廃・産廃で袋投入も可能

収集運搬から中間処理、最終処分まで実績を重ねる塵芥セター（香川県高松市、平尾範明社長）は、日量18t（6t×3基）の処理能力を持つタテ型の堆肥化プラント（中部受け付け可能にした。



破袋選別装置を組み込む

同社は、産廃から一般廃棄物、土木浚渫工事、特別管理産業廃棄物の収集運搬・処理、処理困難物、解体工事業、古物商といたった幅広い事業展開を見せる。堆肥化プラントは、3年ほど前から検討してきたが、排出

者の要望が高まり、食品残さの処理が必要になってきた。臭いの問題があるため、切り返しでは厳しいと判断した。処理対象物は、食品残さや下水汚泥といった有機性廃棄物が中心になっている。好機性発酵を利用した処理シ

では、臭内がターゲットだ。導入した中部工コテックの有機性汚泥の処理装置「クリンコンボ」は、縦型密閉式のコンボスト



タテ型堆肥化プラント

処理装置で、高温発酵処理で滅菌、熟成することで良質な堆肥製造ができる。3基を並べて使用するため省スペースで、効率よく装置を動かすことが可能だ。